

## 法統相続の大事

「法統相続」とは、私たちが行じている信心を、子どもたちに正しく伝えていくことであります。我々がどれほど信心に励んでも、法統相続ができなければ、我が家の正法の灯火はいつしか消えて、正しい追善回向も途絶え、広宣流布も遠のくことになるでしょう。ですから、御本尊への報恩感謝を小さい時から教えていただき、寺院、布教所等での会合があるならば、参詣の機会を増やして、仏縁に触れさせるようにして頂きたいと思えます。また、参詣している子どもたちを目にしたら、声を掛けたり褒めてあげたりして、みんなで育成していくことを心掛けましょう。

子どもを育てるに当たって、最近の風潮は、余り干渉しない立場をとる親が多いようであり、子ども的人格を重んじるからというような理由からでしょう。しかし、言葉は悪いのですが、子どもを野放しにするような育て方は、いつの時代でも好ましくはないのです。何より正しい躰けができません。まして正法の信心を、「子どもが自分で判断できるまで教える必要はない」などと言う人がいますが、これなどは無慈悲であり、親の責任を放棄したようなものであります。自分が正法で得た喜びを、そのまま子どもに伝えるのはむしろ当然と言うべきであります。

親が子を育て導くあり方について、『法華経』には「良医病子の譬え」が説かれております。

ある立派な医者がおりまして、この医者にはたくさんの子どもがいました。ところが留守をしている間に、子どもたちは誤って毒薬を飲んでしまいました。父親である医者が帰ってくると、子どもたちはもがき苦しんでいました。医者はすぐに良薬を調合して、飲ませようとしたのですが、毒気が深く入って本心を失っていた子どもたちは、なかなか服用しようとしません。そこで父親は一計を案じました。「ここに良い薬を置いておくから、必ず飲んで毒の苦しみを治しなさい」と言い置いて出かけました。そして使いを遣わし、子どもたちに「あなた達のお父さんは旅先で亡くなった」と告げさせました。聞いた子どもたちは驚き、もう頼れる人がいなくなったことを知って悲しみました。ここで初めて、お父さんが残してくれた良薬のことを思い起こして服用しました。薬は効いて、子どもたちはみな毒薬の苦しみから快復して、元気な身体にもどりました。そうしたところにお父さんが帰ってきて、ともに喜んだというのが、「良医病子の譬え」であります。

この譬えで、良医のお父さんとは、実は仏様に譬えています。多くの子どもたちとは、我々衆生のことです。五欲にまみれて生きている衆生に対し、仏様は苦悩から救おうと、妙法蓮華経の教えを説かれるのですが、衆生はなかなか聞こうとしません。そこで仏様は巧みな方便を用いて、正法の信仰に向かわせたことを、「良医病子の譬え」で示されているのであります。

日蓮大聖人は、『千日尼御返事』に、

子はかたきと申す経文もあり（乃至）子は財と申す経文もはんべり。

（御書 1476 頁）

と仰せであり育て方一つで、子どもは親の敵にもなり、逆に大事な宝ともなります。

また、『寂日坊御書』には、

父母となり其の子となるも必ず宿習なり。

（御書 1393 頁）

と御教示であります。親子の関係は決して偶然ではなく、過去世からの深い因縁で結ばれているのですから、そのことをしっかり自覚しましょう。

現在の我々は、まさに自らの一生成仏を願い、自行化他の信心に励み、法統相続に努めることが、現在の自分を救うこととなります。そして、未来については、我が子や孫を立派に育てて、信心の意義を伝えることが未来を救うことに繋がります。さらに我々が死した後にも、子孫等が正しい教えで回向してくれることは、我々の死の成仏を顕すことになるのであります。

御法主日如上人猊下は

御両親から受け継いだ信心を素直に守り、戒壇の御本尊様を信じ、自行化他の信心に励み、一家和楽を心掛け、まじめに信心に励むことによって、計り知れない大きな功德を頂き、父母の恩に報いることができるのであります。それと同時に、法統相続して強盛な信心に励む時、父母の恩のほか三宝の恩をはじめ、四恩のすべてに報いることになるのであります。

（御指南集 14-10 頁）

と御指南であります。

私達は真の幸せを得ることができる日蓮大聖人の正しい信仰を、子々孫々に亘って受け継がせていく努力を怠ってはならないのであります。

最後に、法統相続は広く考えた時に、自分の子どものみならず、親類や縁のある方々にも相続していくことであります。さらに、自分一人で信心をしている方であったとしても、法統相続することは可能なのであります。

日蓮大聖人は『高橋入道殿御返事』に、

我が滅後の一切衆生は皆我が子なり、いづれも平等に不便にをもうなり。

（御書 887 頁）

と仰せであります。日蓮大聖人の崇高な御境界に随順し、一切衆生であるすべての人を我が子の如く思えるような、心の中に広大な信心を持つことが大事であります。

そして、日々しっかりと御本尊に祈り、慈悲の心をもって折伏に育成に精進していくならば、自分の思いを継いでくれる人が必ず現れてくるのであります。

未来をいかようにも開いていけるのが、この信心なのでありますから、共に信心修行に励み、功德善根を積んで参りましょう。